

# C3C

## CENTER SPEAKER SYSTEM



ATC(Loudspeaker Technology Limited)は1974年に現社長のピリー・ウッドマンによって創立、英国ロンドンから西方のグロスターシャー州ストラウド市アストンダウンの田舎にあります。ATCのスピーカー設計はスペックとしてのインパルスレスポンス、アキュラシー、透明度、ダイナミックスの高いレベルでの実現というファンダメンタルを重視、コストを惜しまないユニットデザイン、さらにアコースティック楽器やボーカルのナチュラルな再現のために、振動系には極力自然素材を採用するなど、創立以来一貫した取り組み姿勢は一流スタジオからの絶大な信頼を得ています。今日、ホームシアターオーディオにおいてもデジタル環境の整備化とともに高い解像度とダイナミックなオーディオ再生能力がますます要求されています。ATCは先に発売の家庭用ならびに小型クラスのスタジオモニターSCM7/SCM11/SCM19にマッチングするセンターチャンネルスピーカーシステムを新しくデザインいたしました。C1CはSCM7に、C3CはSCM11やSCM19との組み合わせに適しています。

C3CはSCM11のMid/LFドライバーを2ユニット搭載し、主にセリフやボーカルの帯域を受け持ちます、同帯域でのリアルさはATCならではの、他の追随を許しません。SCM11やSCM19と組み合わせたシステムは家庭用がメインのデザインですが、プロユースとしても映画のサウンドトラックとミュージックのリアリスティックな音圧レベルを達成する十二分なダイナミックレンジとパワーを発揮、高い音楽性を誇ります。

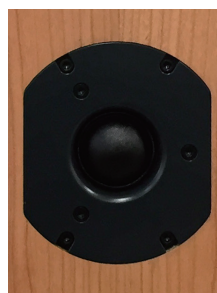
中低域用の2つのMid/LFドライバーには中域に重要な意味を持つ45mmφのソフトドームを持ち、ATCの最新「CLD (Constrained Layer Damping)」技術が採用されています。この新しいCLD技術は、広い面積のウーファーでは避けられないコーンレイヤーの分割振動を制御するもので、これはドライバーからシステムパフォーマンスを高め、音楽再生へのステップチェンジを可能にします。その利点は、通常のコーン紙と比べてハーモニックディストーションを300Hzから3kHzにわたって減らし、伸長された周波数帯域を持ち、クロスオーバーフィルターのスロープ上の制約を取り払い、スピーカー軸上を外れた範囲での周波数レスポンスも向上させます。磁気回路はOFCフラットリボン・ワイヤーで高密度に巻かれた45mm径のショートボイスコイル、長く狭い磁気ギャップ、スピーカー口径に近い強力マグネットを持ちます。またポールピースはアンダーカットされ、対照的な磁束の中でボイスコイルが正確に駆動、低歪率、ハイパワーハンドリング、長期の高信頼性を得ています。

高域の自社製ソフトドーム・トゥイーターは、C1C、C3C共通の25mm口径で、強力なネオジウム磁気回路と大型ヒートシンクを備え、強力な中低域のエネルギーにも完璧な対応をし、また繊細な高域表現と指向性の為にATC独自のウェーブガイド備えています。ネットワークも余裕の耐圧を持つパーツで構成され、全帯域がフラットなインピーダンスになるようデザイン、アンプに優しい設計となっています。

小型スピーカーにとって強度面で重要なバツフルは、厚みあるサブバツフルマウントで重量ドライバーは本体キャビネットですべて支えています。この構成要素は広いバンド帯域、広いダイナミックレンジに貢献しています。C3Cの指向特性は水平方向に80°の広さを持ち、マルチチャンネルのインストールにとっても非常に有効で、正確なセンターチャンネルのモニタリングを実現しています。キャビネットはフロントバツフルをしっかりと支える高密度MDF、チェリー仕上げとなっています。

### C3C 製品仕様

- 形式：2ウェイ3スピーカー / 密閉型
- 使用ユニット：
  - トゥイーター・new25mmφソフトドーム (ウェーブガイド付き)、ネオジウムマグネット
  - ミッド / ウーファー・150mmφ特殊コートポリエステル織コーン CLD x2本
- 再生周波数帯域：-6dB・48Hz～20kHz
- クロスオーバー周波数：2.5kHz
- 出力音圧レベル：86dB/W/m
- 最大音圧レベル：112dB/SPL/(1m/連続入力)
- インピーダンス：8Ω
- 入力スピーカー端子：ジャンパー付結線ポスト / 4mmφプラグ (バイワイヤリング対応)
- 外形寸法：N/A
- 重量：N/A
- 仕上げ：標準仕上チェリー
- 価格：250,000円 (税別)



自社製ウェーブガイド付トゥイーター



C3 Center CLD ウーファー